

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校</p> <p>強き信念(まこと) と 高き理想(のぞみ) を持つ生徒が育つ高等学校</p> <p>1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校</p> <p>2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性を涵養する学校</p> <p>3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校</p>

2 中期的目標

<p>1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校</p> <p>(1) 新たな大学入試制度に対応するとともに、次期学習指導要領を見据えた教育課程の編制と授業の充実を図る。 ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。</p> <p>(2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)としての学力向上に係る内容の充実を図る。</p> <p>(3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。 ア 年間計画の充実と一層の進路指導の情報提供に努める。 イ 国公立大学志望90%という生徒の希望進路の実現を支援する。 ※国公立進学率を80%以上に引き上げるとともに全体の目標進学率の向上を図る。</p> <p>(4) 英語コミュニケーション能力の育成 ア 英語4技能(聞く、話す、読む、書く)を高いレベルでバランスよく身につけさせるために、4技能統合型授業を導入し、実践的英語力の向上を図る。</p> <p>(5) グローバル化対応・ICT化対応の教育の推進 ア 授業におけるICT化及びアクティブ・ラーニングを推進する。</p> <p>2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性を涵養する学校</p> <p>(1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させようとする生徒を育成する。 ※1年次部活動加入率90%以上の維持を図る。・・・オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。</p> <p>(2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。</p> <p>(3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。</p> <p>3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校</p> <p>(1) 授業における課題研究活動とボランティア体験活動など、社会貢献活動の充実と発展を図る。</p> <p>(2) 海外派遣研修や海外の高校による学校訪問(受入)等により、国際感覚のさらなる向上に努める。</p> <p>(3) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。 特に生徒に関しては、地域ボランティア活動を積極的に推奨する。 ※ 生徒のボランティア参加率を55%以上に引き上げる</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学力の充実と自己実現】・・・ほぼすべての項目で向上 ・生徒アンケートでの「わかりやすく興味深い授業」(91.5%、1.5P↑)「効果的な教材やICT機器の活用などの工夫」(91.9%、1.2P↑)をはじめ、教員の学習指導に関する項目は軒並み肯定的回答が向上している。 ・同じく進路指導に関しても「必要な情報の提供」(88.9%、1.2P↑)「将来や生き方を考える機会」(88.7%、1.5P↑)など向上が見られる。</p> <p>【豊かな人間性の涵養】・・・自主活動に関する項目が低下 ・「教員の指導は納得できる」(83.8%、3.6P↑)「命の尊さや社会のルールを学ぶ機会がある」(82.5%、1.3P↑)「人権尊重の大切さを学ぶ機会がある」(88.4、4.5P↑)など肯定的回答が大きく増加した。 ・「HR活動が活発」(80.2%、0.3P↓)「学校行事の工夫」(80.5%、0.6P↓)「自治会活動が活発」(76.2%、6.0P↓)など、自主活動への満足度が低下した。生徒の企画力や実行力を高めるための方策が課題。</p> <p>【国際社会に貢献する人材育成】・・・すべての項目で向上 ・「国際交流」「SSH」「GLHS」に関する肯定的回答も1.4~5.0P向上し、取組みが役立っていると実感している生徒が増えている。</p> <p>【保護者アンケート】・・・危機管理時の学校の指導への信頼感が課題 ・回収は648(回収率60.0%)多くの項目で肯定的回答は高く、向上した。 ・「災害時の対応の生徒への周知」(75.4%、4.1P↓)は低下した。 ・「学習環境」に対する満足度は他の項目に比して、生徒も保護者も低い。</p> <p>【教職員アンケート】・・・生徒の成長のための指導上の課題がある ・「総合的に学力・人間的成長を促せている」(89.4%、10.6P↓)に代表されるように、生徒の成長のための取組みへの肯定率が大きく低下した。</p>	<p>第1回(平成30年7月11日) 〈SSH、課題研究について〉 ○SSHの数学重点枠の指定は外れたが、マスフェスタ・マスカンプをはじめとする、特色ある活動を今後も続けてほしい。 ○生徒の意欲関心を伸ばすためには、様々な機会を与えて経験させることが大切である。 ○教員への負担の増加が懸念されるので、学校全体で工夫することが求められる。 ○課題研究で培った「考える力」が受験にも通ずることを保護者にも説明する必要がある。 〈学校行事、その他について〉 ○学校行事がたくさんあることは、タイムマネジメント力が育成されて良い。 ○海外進学に関する情報提供を行い、卒業後の進路の選択肢を増やすと良い。 ○ICTの活用や、会議や資料のペーパーレス化などで、働き方改革を進めていけるとよい。</p> <p>第2回(平成30年12月19日) 〈授業アンケート、課題研究と教科の授業について〉 ○授業アンケートの評価が高くなっているが、自主学習や授業改善がまだ課題と思われる。 ○課題研究だけでなく、教科全体を通して考える力やプレゼン能力を育成できる授業にしていくための指導が求められるのではないかと。 ○英語の授業では、生徒が指示待ちになっておらず、主体的に学んでいる印象を受けた。 他の教科でもさらなる積極的な学びの姿勢を引き出せるよう、引続き検討してほしい。 ○課題研究が基礎学力が十分でない生徒に負担とならないよう留意する必要がある。</p> <p>第3回(平成30年2月14日) ○授業改善は進んだが、今後は、65分授業の効果的な展開のしかたや、家庭学習が促進されるような授業作りを意識して改善に取り組んでほしい。 ○遅刻欠席などの自己管理については、どの学校でも課題となっているが、生徒の分析を進めるとともに、学校としての姿勢を生徒や保護者にしっかり示し続けていく事も大切。 ○課題研究については、基礎学力の充実を進めるとともに、大学進学への単なる対応策にならないようにじっくりと進めてほしい。</p>

・学校経営に関しては、全体的に向上している。	○「大人しい」「真面目」といった校風は大手前の伝統であるので、学校経営方針にも反映してほしい。
------------------------	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校	<p>(1) 学力の充実と進路希望の実現</p> <p>ア 授業などの学習指導方法の更なる工夫と改善を進める。</p> <p>イ 生徒の自学自習力の育成に努める。</p>	<p>ア・教師力の向上を図る。 企画経営会議(首席、研究開発部長、国際教育部長、情報部長)が中心となり、①～④に組織的に取り組む。</p> <p>①日常的な授業見学(バディシステム、スーパーティチャー制)や研究授業の実施などにより、自らが積極的に日々授業改善に取り組む組織を構築する ※授業アンケートの実施[7月・12月]とその分析及び課題解決</p> <p>②学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や制度の改善、補習・講習の充実に努める。</p> <p>③校内教職員研修の充実 ※経験の少ない教員に対する研修 1. 経験豊かな教員による個別研修 2. 定時制教員や他校教員との合同研修 ※進路指導に係る研修の開催</p> <p>④校外・海外研修への参加増進 ※教職員の70%が海外研修・宿泊研修に参加した経験を持つ。(マレーシア・シンガポール・アメリカ・イギリス・東京・京都等)</p> <p>⑤教員の働き方改革を促進 校務のICTをさらに進める</p> <p>イ・SSH事業の推進とコアSSH校としての取り組みの充実を図る</p> <p>①文理学科にかかる1年全員必修の「まこと」の充実</p> <p>②「サイエンス探究」(2年後期から3年前期・文理学科)の充実</p> <p>③全国規模の数学発表大会(マスフェスタ・8月)・中学生対象数学講座実施を含めた取り組みの充実</p> <p>④グローバルリーダーズハイスクールとしての取り組みの充実を図る。 ※各種研修、サマースクール(2年京大研修(7月)、1年阪大研修(8月))、1・2年集中セミナー(12月)の実施と学生科学賞や科学オリンピック等への参加を推進する。</p>	<p>・授業アンケートによる肯定的評価 85%以上 (29年度は、2回平均 84.5%)</p> <p>・学校教育自己診断での教職員・生徒の肯定的評価 82%以上及び実施内容 (29年度は、80.4%)</p> <p>・実施回数の達成度とアンケートによる充実度(29年度は、個別研修8回・合同研修5回実施、進路研修は 31 回実施した。それらを上回ることが目標)</p> <p>・参加割合の達成度 70%を維持 (29年度は 70.3%が参加経験)</p> <p>・ICT 活用率の向上 (30年度学校教育自己診断の項目を一部変更して、検証・分析する)</p> <p>・達成度(実施回数も含む)、コンクール・コンテスト受賞、学校教育自己診断による SSH 行事の肯定的評価 前年度以上 (29年度 生徒 71.9%、保護者 89.2%)</p>	<p>・ICTの活用など、教員の指導面での工夫が進み、授業アンケートの肯定的評価は、2回平均で 85.3%となり、目標を達成した。(○)</p> <p>・授業見学は、相互授業見学を合わせて延べで 205 (人・回)行われ、授業改善に向けた教職員の組織的な取り組みが進んだと言える。(○)</p> <p>・補習や講習の充実により生徒アンケートの肯定的比率は 93.8%と昨年度比 3.2P 上昇したが、教職員アンケートでは 76.6%で 3.2P ダウンし、課題が残った。(△)</p> <p>・個別研修 9 回、合同研修 3 回、進路研修 31 回を実施し、指導力の向上をはかってきた。学校教育自己診断「進路について必要な情報が提供されている」の肯定的回答も 88.9%あり昨年より向上した。(○)</p> <p>・本年度末で校外・海外研修への参加教員のある教員の割合は 64%となり低下した。研修の参加体制や働き方改革の観点で、指標の見直しを検討する。(△)</p> <p>・ICT活用については生徒アンケート (91.9%、1.2P ↑) 教職員アンケート (95.8%、5.8P ↑) に表れているように、活用が進んだ。(○)</p> <p>・パソコン甲子園ベストアイデア賞、日本数学コンクール奨励賞など、全国レベルで 5 人、府レベルで 19 人の受賞があった。(○)</p> <p>・国のSSH事業の重点枠指定からは外れたが、マスフェスタをはじめとした取り組みを実施できた。「SSHの取り組みは役立っている」と答えた生徒は 76.9%、保護者 92.1%と向上した。(◎)</p> <p>・グローバルリーダーズハイスクール」の取り組みについても着実に実施し、肯定的評価も生徒 75.5%、保護者 94.7%と上昇した。(○)</p>
2 豊かな人間性を涵養する学校	<p>(2) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 授業、学校行事、自治会活動、部活動、国際交流事業や、関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに、生き方やあり方を探究させ、豊かな心と規範意識を醸成する。</p>	<p>ア 規範意識の醸成</p> <p>①あいさつの励行と服装指導</p> <p>②個に応じた遅刻指導と教育相談体制の充実 ※全教員当番制で遅刻指導を実施。 ※学校独自のスクールカウンセラーの配置の継続(年間 12 回) ※教育相談委員会に管理職、学年主任が出席し、個別に支援の必要な生徒のアセスメントを迅速に行う。</p> <p>③あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。</p>	<p>・達成度、保護者、外部からの評価</p> <p>・遅刻回数 2684 回(27～29 年度平均)以内の達成</p> <p>・配置の継続と回数・内容の充実度、アンケート(相談件数 29 年度 87 回)</p> <p>・達成度、内容の充実、学校教育自己診断での肯定的評価、前年度を超える(「いじめ対応の信頼度…29 年度 85.5%、「人権尊重の大切さを学ぶ機会」…29 年度 83.9%)</p>	<p>・学校教育自己診断で「命の尊さや社会のルールについて学ぶ」について肯定的回答が 82.5%となり向上した。(○)</p> <p>・遅刻総数は、3483 回となり、昨年度より増加した。生徒の自己管理能力を高める指導が必要である。(△)</p> <p>・スクールカウンセラーの配置と活用を予定通り実施し、74 件の相談に対応してきた。また管理職と関係教員によるケース会議も 3 件の案件につきそれぞれ複数回実施し、対応してきた。(○)</p> <p>・学校教育自己診断での「いじめ対応の信頼度」は 86.6%と上昇した。また「人権尊重の大切さを学ぶ機会」も 88.4%に上昇した。(◎)</p>

府立大手前高等学校

<p>3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校</p>	<p>(3) 社会貢献活動の推進</p> <p>ア 地域や社会の課題を発見し、グループで解決に向けて挑戦する人材を育成する。</p> <p>イ グローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成するとともに、幅広い教養と英語力を身につけ、問題発見・解決に向けて主体的に取り組み、使命感を持ってリーダーとしてグローバルに貢献できる人材を育成する。</p>	<p>ア 社会貢献活動の充実</p> <p>①課題研究の充実。1年全員履修の「まこと」の成果をすべての教科に波及させる。</p> <p>②ボランティア体験活動への参加。</p> <p>イ 国際交流の推進</p> <p>①海外生徒派遣研修(豪州、シンガポール、アメリカ)や姉妹校(英国ペンブライズ高校)との交流、来日高校生との交流の実施</p> <p>②イングリッシュキャンプ(3月)[大阪大学在籍の留学生との交流等]の開催</p>	<p>ア</p> <p>・実施の有無と充実度(授業アンケート等)の向上 (授業満足度 29年度 84.5%)</p> <p>・生徒の参加率 55%と充実度(アンケート等)(29年度参加率 52.7%)</p> <p>・実施の有無と充実度(学校教育自己診断・アンケート等)の向上</p> <p>※項目「国際教育の取組みは評価できる・役に立つ」(29年度保護者 91.1%、生徒 80.2%)</p>	<p>・1年生全員が通年で「まこと」に取り組んだ。「集団をまとめていく機会がある」(80.9%、2.0p↑)「環境・国際・福祉等の現代的課題を考える機会」(79.0%、2.8P↑)など探究的な学びが進んだ。授業アンケートの肯定度も 85.3%に上昇した。(◎)</p> <p>・ボランティア活動の参加実績は、大阪城公園の清掃を実施できなかったため 165人、16%と低下した。次年度は大阪城講演の清掃を実施する。(△)</p> <p>・延べ 170名の生徒が 4つの海外研修に参加した。また 2回の海外生徒の受け入れを行ってきた。国際交流の取組みの肯定的評価は、生徒 81.6%、保護者 94.3%と向上した。(○)</p> <p>・イングリッシュキャンプを 60名の参加で実施した。(○)</p>
--------------------------------	---	---	--	---